

客観的臨床能力試験 (OSCE) を試みて

○倉ヶ市絵美佳・井林寿恵・太田智子・橋元春美
京都府立医科大学附属病院

【目的】A 大学附属病院では、教育プログラムのひとつとして一人前看護師育成プログラムに取り組んでいる。臨床実践能力の評価のひとつとして、これまでの看護技術テストに変えて客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination、以下 OSCE) を実施することとした。そこで、H21 年度は新人看護師を対象に試行を実施した。その実践報告と今後の課題について報告する。

【実施内容】1) 対象：ベーシックラダー I 受審者で受験を希望した新人看護師 8 名。成人病棟 4 名(50%)、小児病棟 1 名(12.5%)、集中ケア (NICU を含む) 3 名(37.5%)、手術場 1 名(12.5%)。2) 事前準備：ベーシックラダーレベル I の集合研修時に、OSCE の概要説明およびシミュレーション教育を実施した。3) 課題設定：成人病棟、小児病棟、集中ケア、手術場のすべての部署で使用する薬剤(インスリン) の与薬技術。食前の血糖値測定・インスリン投与を行う場面。課題提示 1 分、課題遂行 10 分、フィードバック 5 分で設定。4) 場所：内科外来診察室。5) 評価：厚生労働省に新人看護職員研修指導指針のなかに表示されている、臨床実践能力の構造 (I. 看護職員として必要な基本姿勢と態度、II. 技術的側面、III. 管理的側面) をもとに視点を設定した。評価表により評価者 2 名が評価を行い、コメント欄にフィードバックの内容・気づきを記入した。模擬患者はコメント欄にフィードバックの内容・気づきを記入した。

【研究方法】OSCE 実施後に、OSCE の有効性、課題のレベルの妥当性等及び自由記述により感想や意見に関するアンケート調査をおこなった。倫理的配慮は、アンケート調査の協力は自由意志で同意しなくても不利益を被

らないこと、個人情報の保護について説明し、同意を得た。

【結果】時間内に課題を遂行できたのは 1 名であった。課題の妥当性は、レベルが高い 37.0%、妥当であった 63.0%であった。「一般的な病名・状況設定だったので患者の把握には戸惑いが少なかった」という意見が周産期病棟に所属しているものからあった。時間は、短いほうが良い 12.5%、適当 75.0%、長いほうが良い 12.5%であった。場所は、良い 50.0%、普通 50.0%であった。今後の業務の参考になるかは、大変参考になった 25.0%、参考になった 62.5%、参考にならなかった 12.5%で、参考にならなかった理由は、業務内容の違いであり、所属は手術場であった。有効性は、大変良い 37.5%、良い 37.5%、ふつう 12.5%、やや悪い、悪いは 0%であった。良い理由は、自分の看護の振り返りになるため等であった。自由記載の中で「第 3 者から自分が普段行っている看護について評価をもらえる」「あたたかい雰囲気の評価してもらい行いやすかった」という感想がみられた。

【考察】成人病棟の業務内容で課題設定を行ったが、成人病棟に所属しているものでも課題を遂行することができず、時間設定に問題があったと考えた。しかし時間は適当と評価しているものが多かった。これより、課題が遂行できなかったのは、場所等の環境設定が要因と考えられる。所属部署により OSCE 有効性の評価に相違があったが、今後は部署毎ではなく、一人前看護師の臨床実践能力の定義に沿った課題検討が必要であると考え。また、所属部署の相違を埋めるためには、事前に学習内容を提示し、研修を企画していくことが必要ではないかと考える。